

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年5月18日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.13】

JR革マル派の秘密黨員名を暴く！

南雲(坂入)氏が自己批判した「大討論集会」について記載した「解放」(2000年12月20日号外)には、同じ1面に「孤立化する9条連」と題して、次の記述がある。

こうした養殖組合への加入戦術(もぐりこみ戦術)なるものを、面従腹背的に企て実行した五人組(南雲・黒潮・大方・飛田・小田)は、同時に黨員としては、党中央にたいして隠然と反抗し続けてきた反党陰謀分子なのであって、... (後略)

ところで、前号の通り、南雲(坂入)氏は「大討論集会」で次の通り述べたという。

九州労組員を養殖組合に売り渡し、動労以来の戦闘的労働運動の伝統をぶちこわしてしまった裏切り行為の全責任はJR労研中央幹事会事務局長である私と事務局メンバーである船戸、田岡、新潟の松崎、および総連委員長小田にあります。

また、「解放」(2000年11月27日1646号)には、「JR九州労の大量脱退の真相を怒りをこめて暴露する」と題して、以下の記述がある。

この前代未聞の労働組合組織破壊が、驚くべきことにJR総連委員長・小田、同書記長・山下、JR九州労委員長・北、JR労研事務局の一部指導部(代表・大方、事務局長・南雲、黒潮、飛田)の7人が仕組んだものであることを、われわれは断固暴露する。

これらを見比べると、「JR九州労の大量脱退事件」の首謀者の氏名が、坂入(南雲)氏を含め、本名と別名とで書かれていることがわかる。船戸氏、田岡氏、(新潟の)松崎氏は、革マル派から、「大方」「黒潮」「飛田」のいずれかの名前で呼ばれている。なお、革マル派は、当時のJR総連山下書記長もこの事件を仕組んだと述べている。

JR革マル派は党内のレベルに合わせてペンネームを持っている！

こうした革マル派の“ペンネーム”、つまり「秘密黨員名」について、元JR東労組中央執行委員の本間氏は、3月3日の「週刊現代裁判」の証人尋問で、次のように証言している。

(被告代理人)ある人がL読からAメンバーあるいはマングローブに上がっていきますと、ペンネームはずっと同じものを使うんでしょうか。(本間氏)違います
(代理人)それは、どういうところで、どういう段階で違ってくるんですか。(本間氏)各段階にそれぞれのペンネームを持っています。ですから、今日はAの会議であればAの段階のペンネームを使います。
(代理人)それぞれの場において使いわけるといえることですか。(本間氏)そうです。
(代理人)ペンネームというのは、自分で付けるんですか。(本間氏)基本的には、そうです。
(代理人)ちなみに、本間さん御自身は、マングローブのレベルでのペンネームはどのようなものですか。(本間氏)剣(つるぎ)といいます。

JR革マル派のメンバーが秘密黨員名を持っていることが法廷で明らかにされた。そして、坂入氏の「拉致・監禁」事件をきっかけに、JR総連関係者の革マル派での秘密黨員名が暴露されてきたのである！次号では、この問題を徹底して検証していきたい。

検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！はJR連合ホームページに掲載中！<http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>